



証券コード：4583

2021年12月期 決算補足資料

2022年2月14日



株式会社カイオム・バイオサイエンス



1. 2021年12月期業績

2. 2021年12月期事業進捗

(参考)

事業概要

パイプライン紹介



2021年12月期業績

損益計算書



(百万円)	2020年12月期	2021年12月期	増減	増減の主な理由等
売上高	480	712	232	
(創薬事業)	3	103	99	・ LIV-2008/2008bライセンス契約一時金の計上
(創薬支援事業)	477	609	132	・ 製薬企業等との安定的な取引による売上計上。前年比27.6%増
売上原価・販管費	1,764	2,047	282	
(研究開発費)	1,156	1,312	155	・ CBA-1535治験薬等製造費用を計上
(その他)	607	735	127	・ 受託取引増加に伴う売上原価の増加
営業損失 (△)	△1,283	△1,334	△50	
経常損失 (△)	△1,291	△1,329	△37	・ AMED助成金による補助金収入を計上
当期純損失 (△)	△1,293	△1,479	△186	・ 出資先企業の投資有価証券評価損を計上

貸借対照表



(百万円)	2020年12月期末	2021年12月期末
流動資産	3,248	2,216
（現預金）	2,686	1,790
（その他）	562	425
固定資産	246	122 ①
資産合計	3,494	2,339
流動負債	342	392
固定負債	41	53
負債合計	384	446
純資産合計	3,109	1,893 ②
負債・純資産合計	3,494	2,339

【貸借対照表に関する説明】

①出資先の投資有価証券評価損により、固定資産が減少。

②利益剰余金△1,479百万円

キャッシュ・フロー計算書



(百万円)	2020年12月期	2021年12月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,360	△1,131 ①
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3	△35
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,944	271 ②
現金および現金同等物の増減額	580	△895
現金および現金同等物の期首残高	2,105	2,686
現金および現金同等物の期末残高	2,686	1,790

【キャッシュフローの状況に関する説明】

①CBA-1205/1535の臨床開発を中心とした開発関連費及び創薬研究等の研究費、一般管理費の支出

②新株予約権行使に伴う株式発行による収入



2021年12月期事業進捗

2021年12月期事業進捗ハイライト



創薬事業 - 自社パイプライン

CBA-1205 ヒト化抗DLK-1 モノクローナル抗体

- ✓ 臨床第1相試験前半パートが終了。治験経過から標的および本抗体の安全性が高そうであることが判明。当初計画の最高用量よりも高い用量を追加し安全性評価を実施したが、順調な進捗により開発スケジュールに変更なし。
- ✓ 2021年末に第1相試験後半パートへの移行決定。

CBA-1535 ヒト化抗5T4・抗CD3 多重特異性抗体

- ✓ Tribody抗体として世界初の臨床試験入りに向け準備中
 - ▶ 新規分子Tribodyの製造法を確立しGMP原薬及び治験薬製造が完了。
 - ▶ 非臨床試験データを基に国内規制当局への相談を行った結果、2022年前半の治験申請が可能と判断。国内での開発を決定した。
- ✓ 2021年1月米国・9月中国での特許査定（日米英中で特許成立済）

BMAA ヒト化抗セマフォリン3A モノクローナル抗体

- ✓ これまでに取得した研究データとともにセマフォリン3Aが関与する新たな疾患の探索及び導出活動を継続。

PCDC ヒト化抗CDCP1 モノクローナル抗体

- ✓ ADC用途を中心とした導出活動の推進、並行し動物試験データを蓄積。
- ✓ 2021年7月、出願特許情報が公開。

創薬PJ

- ✓ 研究の進捗状況等に基づき、創薬PJの改廃を実施。
- ✓ 2つの重点プロジェクトについての導出・開発計画の検討、及び今後の事業化に資する研究活動に注力を行う。
- ✓ ライセンス活動にシフトする創薬PJのうちの1つが新規特許出願完了。
- ✓ 新規プロジェクトの発足に向けた基礎データ取得及び評価活動を推進。

2021年12月期事業進捗ハイライト



創薬事業 - 導出品

導出品

LIV-2008
ヒト化抗TROP-2
モノクローナル抗体

- ✓ 2021年1月Shanghai Henlius Biotech, Inc. とライセンス契約締結、中国、台湾、香港、マカオにおける開発・製造・販売権を許諾。
- ✓ 導出活動を継続中。

導出品

ADCT-701

- ✓ 2022年のIND申請および臨床試験に向けた準備が進行中。
- ✓ 米国国立がん研究所（NCI）と神経内分泌がんの共同開発へ。

創薬支援事業

製薬企業との取引

- ✓ 国内製薬企業を中心に既存顧客との取引が拡大し、売上高609百万円（前年比27.6%増・業績予想14.9%超）。
- ✓ 中外製薬およびChugai Pharmabody Researchとの委託研究契約延長（2021年10月18日付および11月1日付公表）

その他

ADLib®システム 活用と改良

- ✓ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の助成事業に参画（感染症領域の研究、ADLib®システム技術改良）
- ✓ 特許査定：ヒトADLib®システムのライブラリ（中国・欧州）、ADLib®システムの抗体取得方法（米国・日本）・抗体可変領域の多様化を促進する方法（欧州）
- ✓ 東京医科歯科大学よりヒトADLib®システムで取得した抗HMGB1抗体を用いたアルツハイマー症の治療薬開発の研究成果*を発表

*アルツハイマー病態の脳において神経細胞死が加速的に増加する分子メカニズムの解明

創薬事業 (パイプライン)



導出品

開発コード	標的分子	疾患領域	創薬研究	前臨床試験	臨床第1相試験	導出先
ADCT-701 (LIV-1205 ADC)	DLK-1	がん (ADC)	▶			2017.9~
LIV-2008 /2008b	TROP-2	がん	▶			2021.1~

自社開発品

★ファーストインクラス

開発コード	標的分子	疾患領域	創薬研究	前臨床試験	臨床第1相試験	ステータス
★ CBA-1205 (ADCC enhanced)	DLK-1	がん	▶			第1相試験中
CBA-1535 (Tribody™)	5T4×CD3 ×5T4	がん	▶			臨床試験準備中

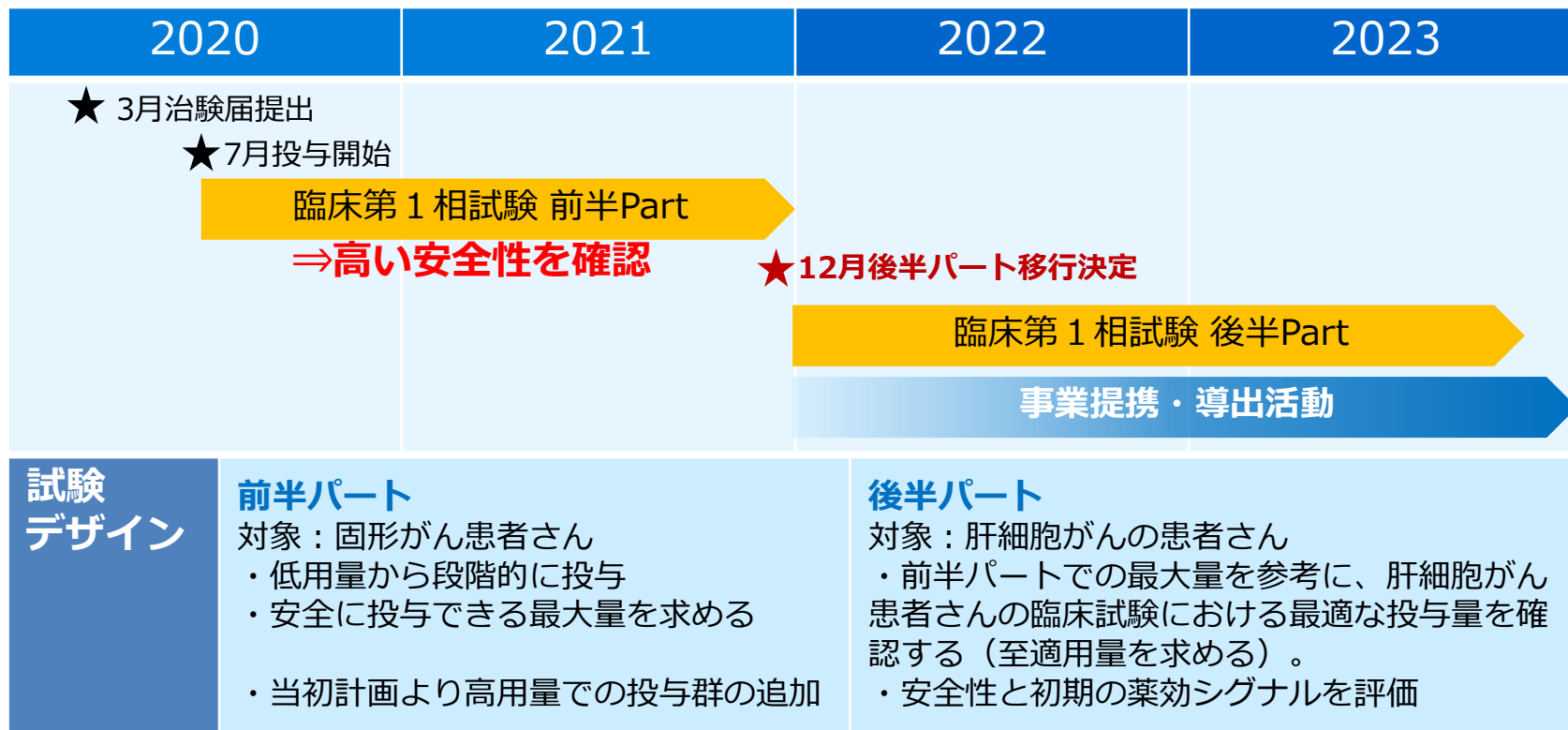
導出候補品及び創薬プロジェクト

開発コード	標的分子	疾患領域	創薬研究	前臨床試験	臨床第1相試験	ステータス
★ BMAA	SEMA3A	非開示	▶			導出活動中
★ PCDC	CDCP1	がん (ADC)	▶			導出活動中
創薬PJ/ 探索研究 (常時10テーマ 程度進行)	非開示	がん/中枢神経 自己免疫疾患他	▶ ※			—

※重点プロジェクトのうち、がん領域のPJで新規特許出願が完了 (2022年1月)



CBA-1205臨床第1相試験の後半パートへ移行決定 肝細胞がん患者さんでの安全性及び初期薬効の評価へ



コロナ禍にも関わらず、非常に早いペースで患者さんの登録が完了

重篤な副作用の発生なし

**後半パートでの薬効シグナルの確認が
早期導出の鍵となる**



CBA-1535臨床第1相試験の概要

	2021	2022	2023	2024
	CMC開発・非臨床試験	治験届提出 (予定)		
		臨床第1相試験 前半Part		
			臨床第1相試験 後半Part	
			事業提携・導出活動	
試験デザイン	前半パート (単剤) 対象：固形がん患者さん <ul style="list-style-type: none"> ・低用量から段階的に投与し、安全に投与できる最大量を求める ・初期の薬効シグナルを評価 		後半パート (がん免疫療法薬との併用) 対象：固形がん患者さん <ul style="list-style-type: none"> ・前半パートで安全性が確認できた用量から段階的に投与 ・がん免疫療法薬 (IO) と安全に併用できる最大用量を求める ・併用での初期の薬効シグナルを評価 	

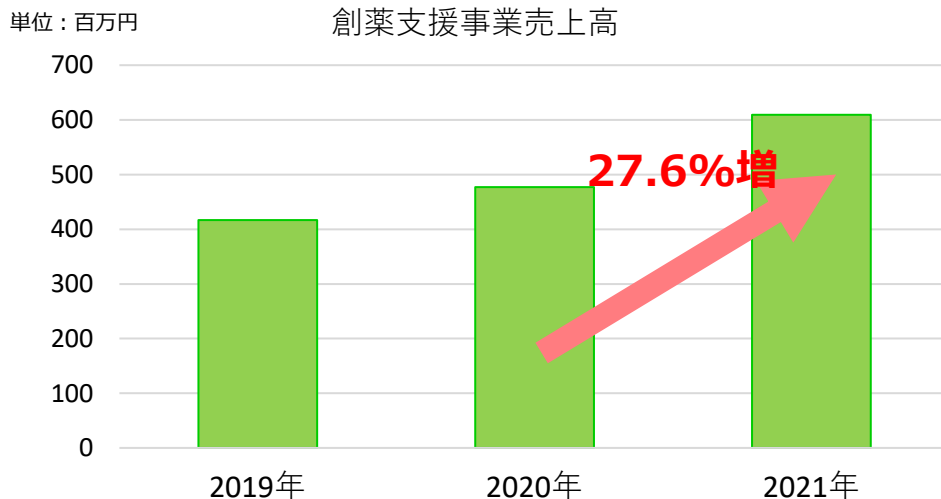
本開発計画の狙い

- 第1相試験時点からIOとの併用を実施することで、CBA-1535が臨床ニーズを満たす安全性及び有効性を期待できるかを最速で確認することを目的とした開発計画。
- 本試験での安全性の確立が T cell engagerとしてのTribody創薬の一里塚となる。



製薬企業等との取引

- 大口顧客の国内製薬企業との安定的な取引が継続したこと、Mologic社及び新たな製薬企業との取引が収益に貢献したことにより21年12月期創薬支援事業の売上高は609百万円（前期比27.6%増）。
- 21年12月期業績予想530百万円に対し14.9%超過。大口顧客等との取引の拡大に加え、22年12月期から新収益認識基準が適用になることに伴い、一部の案件を前倒しで完了し21年12月期の売上計上となったことが業績予想の上振れ要因。22年12月期業績予想売上高は620百万円。
- 中外製薬およびChugai Pharmabody Research（CPR）との委託研究契約延長。
（中外製薬：2024年12月31日まで延長、CPR：2026年12月31日まで延長）



主要な取引先	契約締結年月
中外製薬株式会社	2011年 6月
Chugai Pharmabody Research Pte. Ltd	2012年 8月
田辺三菱製薬 TANABE RESEARCH Laboratories U.S.A., Inc.	2016年12月
小野薬品工業株式会社	2018年10月
協和キリン株式会社	2019年 7月



自社開発パイプラインの価値最大化を狙った開発投資、 及び創薬支援事業の持続的な成長に資する投資資金に充当

資金使途

自社パイプラインの価値最大化を狙った開発投資

- ① CBA-1205 の原薬及び治験薬製造費用等
- ② CBA-1205 の価値向上のための開発研究及びバイオマーカー探索費用
- ③ CBA-1535 の臨床第1相試験後半パート臨床試験費用及び併用する治験薬費用

創薬支援事業の持続的な成長を目指した設備投資

- ④ 設備投資/研究機器の増設及びリプレイス

割 当 先 : SMBC日興証券
発行新株予約権個数 : 80,000個 (8,000,000株)
調 達 予 定 額 : 1,728百万円※

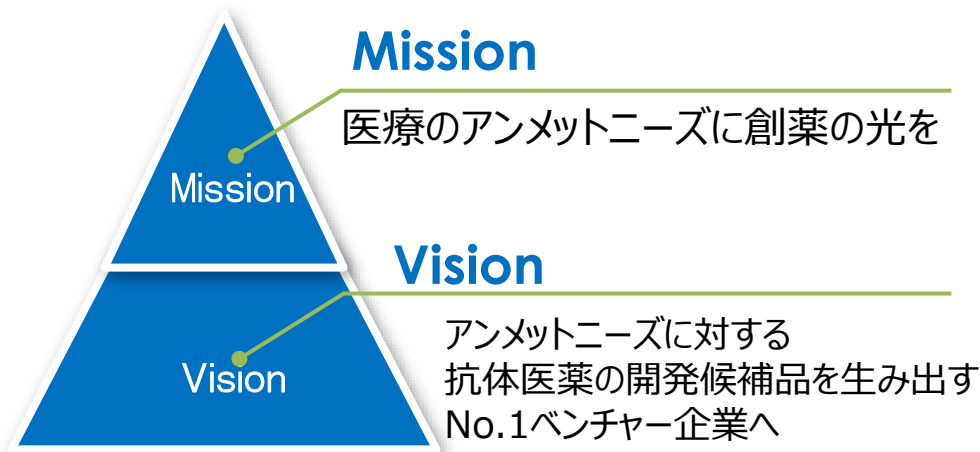
※当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額



(参考) 事業概要



アンメットニーズに対する治療用抗体創製を手掛けるバイオベンチャー



経営方針

- 健全な経営と信頼性の確保を第一に、社会とともに成長する企業を目指す。
- 創造と科学をもってアンメットニーズに対する治療薬を開発して患者さんに貢献する。
-サイエンスと患者さんの架け橋になる-
- 外部連携により継続的なパイプライン創出と企業価値向上を実現する。

■設立	2005年2月
■上場	2011年12月 東証マザーズ (4583)
■代表	小林 茂
■所在地	[本社および技術研究所] 東京都渋谷区本町三丁目12番1号 [創薬研究所] 神奈川県川崎市宮前区野川本町 二丁目13番3号
■従業員	62名 (研究員45名 うちPhD20名)
■事業内容	抗体医薬品の研究開発等 (2021年12月31日現在)



< アンメット (メディカル) ニーズ >

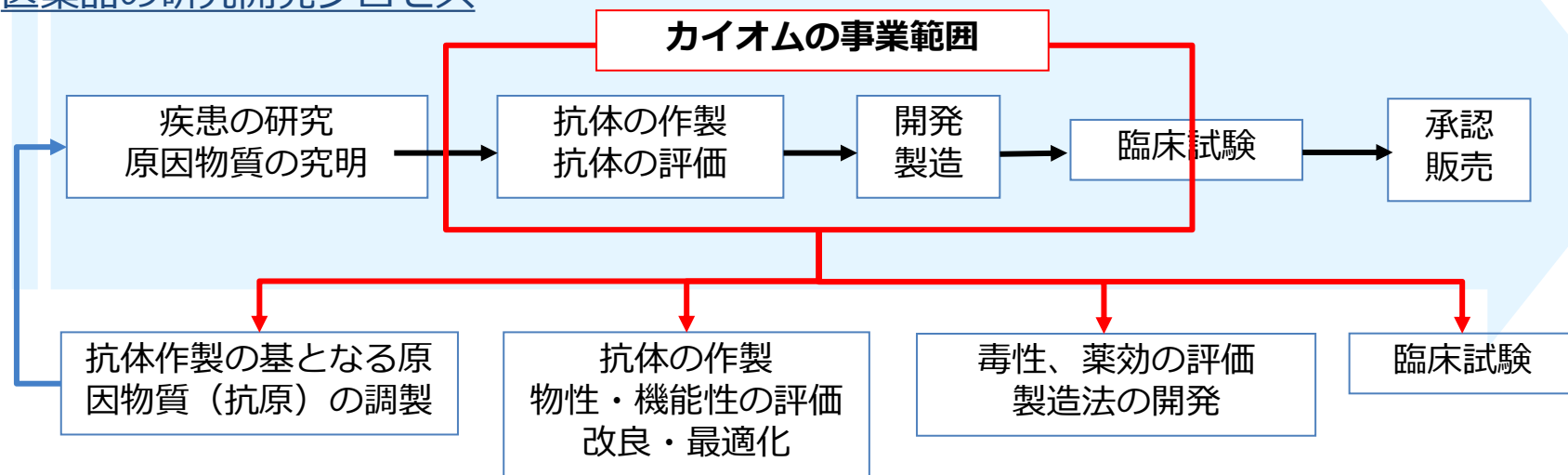
現状の医療では満たされていないニーズ、すなわち、いまだ有効な治療法や薬剤がない疾患に対する医療ニーズのことです。今もなお、アンメットニーズが存在する疾患は数多くあり、新薬の開発が待たれています。



アンメットメディカルニーズの高い疾患に対する抗体創薬

- 有効な治療法がない難治疾患
- 治療法はあっても有効な薬剤がない疾患
- 有効な薬剤があっても使いにくい、副作用が強い
- 患者さんの数が少なく、大企業が手を出しにくい疾患

医薬品の研究開発プロセス



当社の研究開発機能

タンパク質調製

抗体作製

創薬研究

臨床開発

新規抗体創製から初期臨床開発を実施できる研究開発体制を構築



創薬事業

アンメットニーズの高い疾患領域における抗体創薬の自社開発または共同開発を行い、その成果物である抗体に関する特許権等の知財権を製薬企業等に実施許諾し、契約一時金、マイルストーン、およびロイヤルティ等の収入を獲得していく事業。
当社の成長を担う事業。

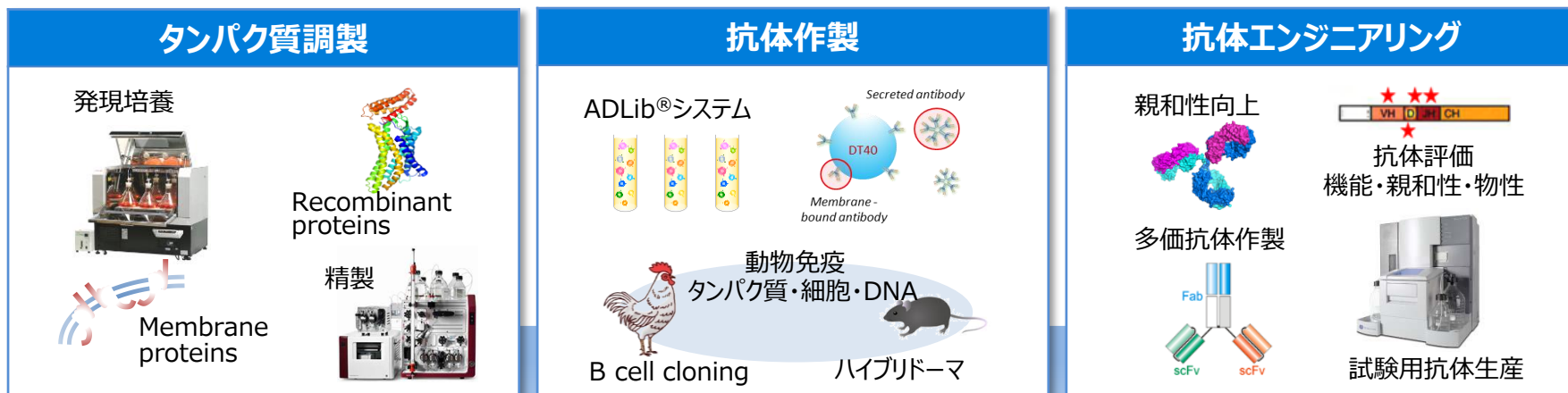
創薬支援事業

製薬企業、診断薬企業および大学等の研究機関で実施される創薬研究を支援することで、サービス料等の収入を獲得する事業。主として国内製薬大手企業に対して、当社の保有する抗体創薬技術プラットフォームを活用した抗体作製・抗体エンジニアリングおよびタンパク質調製を提供する“高付加価値型受託研究ビジネス”。
安定的な収益を獲得する事業。

事業を支えるコア・コンピタンス



技術プラットフォーム (Chiome's mAb Discovery Engine)



独自技術を含む複数の**抗体作製技術**と、**タンパク**や**抗体エンジニアリング**に関する**高度な技術**や**ノウハウ**を有し、これを統合的に駆使することによって、治療標的に対する最適な治療用抗体の創製に取り組むことが可能となります。

当社の優位性

技術プラットフォームを活かし創薬事業と創薬支援事業の両ビジネスの推進が可能、持続的な利益の創出へ

創薬事業

成長性を担う事業

創薬支援事業

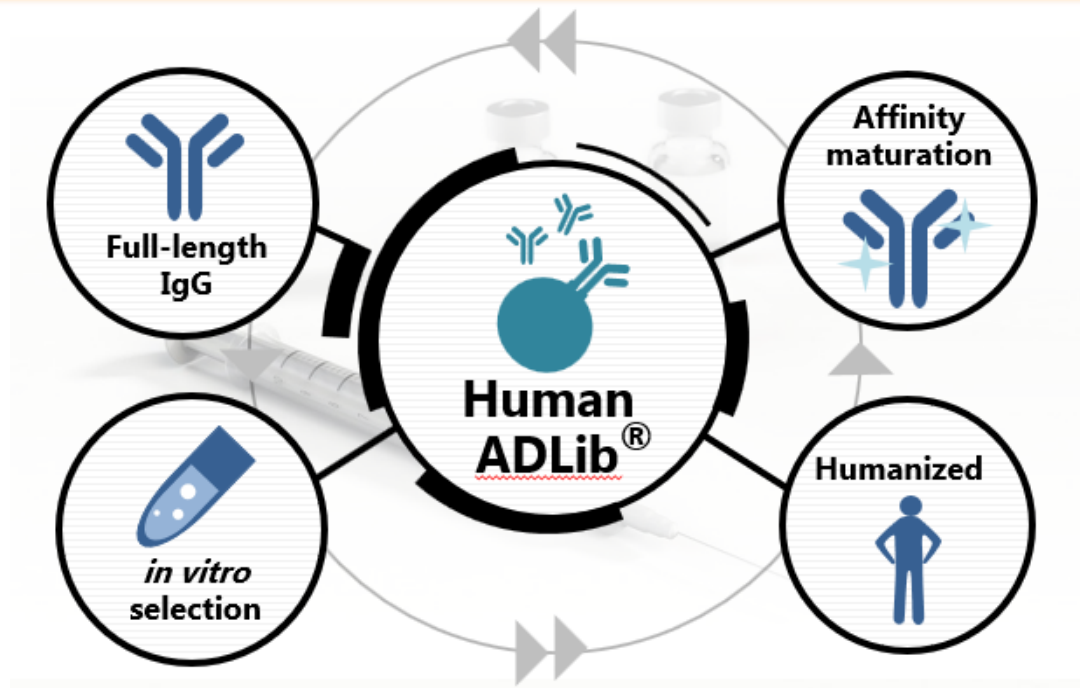
安定的な収益を獲得する事業

コア技術 : Human ADLib[®] System



One-stop-order platform for antibody drug discovery

ADLib[®]システムは、ユニークな配列空間を持つライブラリにシームレスなAffinity maturationを加えたユニークなプラットフォームです。1つのプラットフォームでSelection, Full-length IgGの発現、ヒト化、Affinity maturationまでの抗体創薬に必要なステップをすべて完結できる、ワンストップオーダーの創薬・研究のツールです。



ヒトADLib[®]システムの抗体創薬開発における技術の有用性を「Cellular & Molecular Immunology」で公表
(東京大学大学院総合文化研究科と当社との共同研究成果)

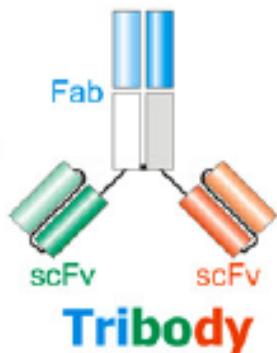
タイトル : Streamlined human antibody generation and optimization by exploiting designed immunoglobulin loci in a B cell line (<https://www.nature.com/articles/s41423-020-0440-9>)

論文のポイント : <https://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/news/topics/files/20200527sobunotseo01.pdf>

コア技術： Tribody™（多価抗体作製技術）



Tribody™

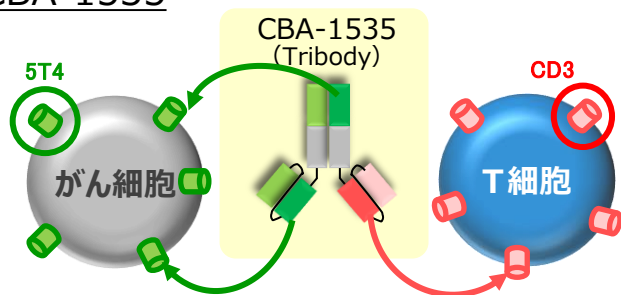


Tribody™は分子工学的手法により作製した複数の抗原に対する特異性を持つ多重特異性抗体で、1つの分子の中に3つの異なる抗原結合部位があり、異なる機能を組み合わせることが可能となる技術。



Tribody技術により医薬品候補物質を創製

CBA-1535



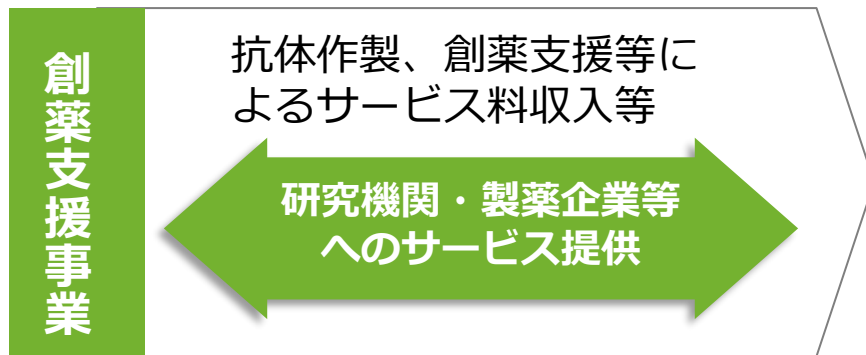
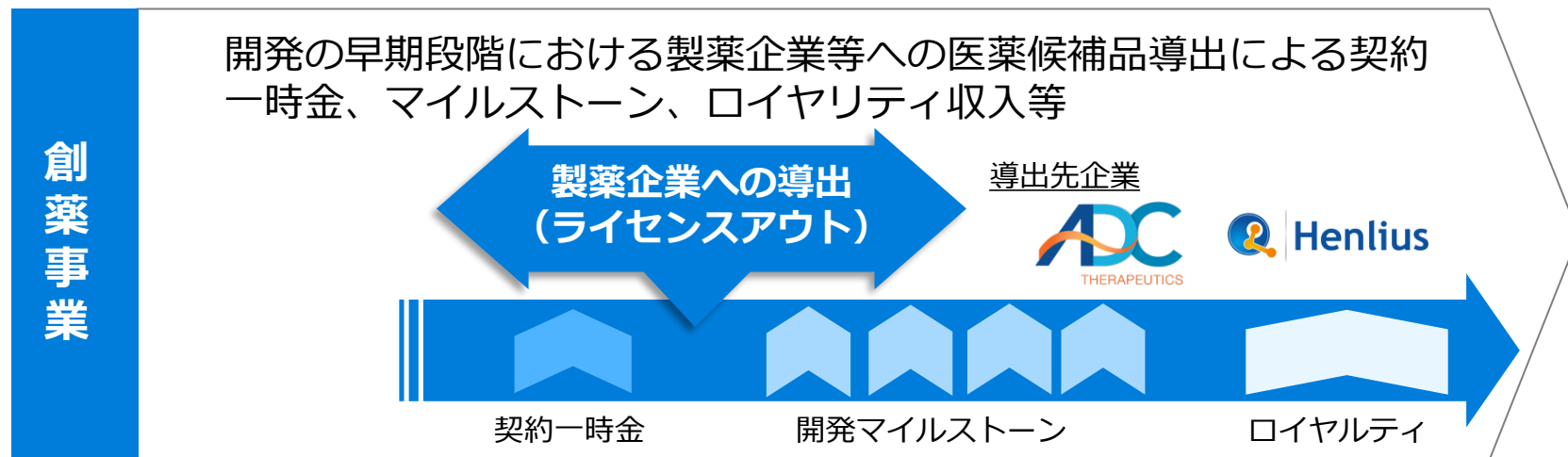
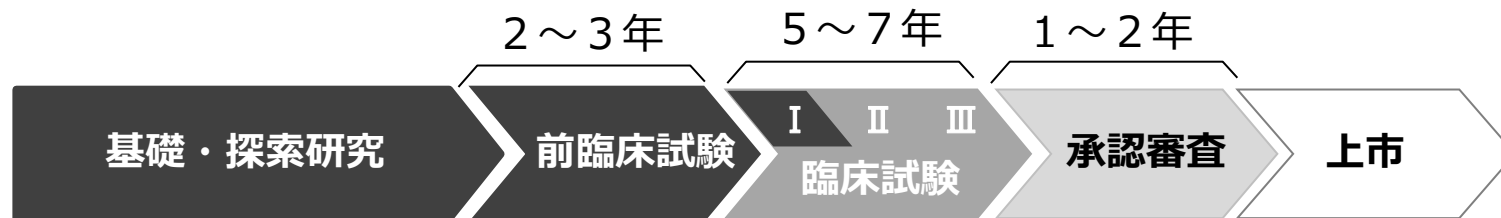
結合部位の1つはT細胞やNK細胞のような抗腫瘍活性を有する免疫細胞(エフェクター細胞)をがん細胞へ誘導するように設計し、残りの2つの結合部位ががん特異的抗原の異なるエピトープに結合、または、同じがんで発現している異なる抗原を認識するように設計することが可能。

結合する分子の組み合わせにより異なる、従来にない特長を有する抗体の創製が可能となります。当社では従来の抗体医薬品よりも安全性及び有効性の高い抗体医薬品の創出に取り組んでいます。



収益モデル

一般的な医薬品開発の流れと当社の収益モデル

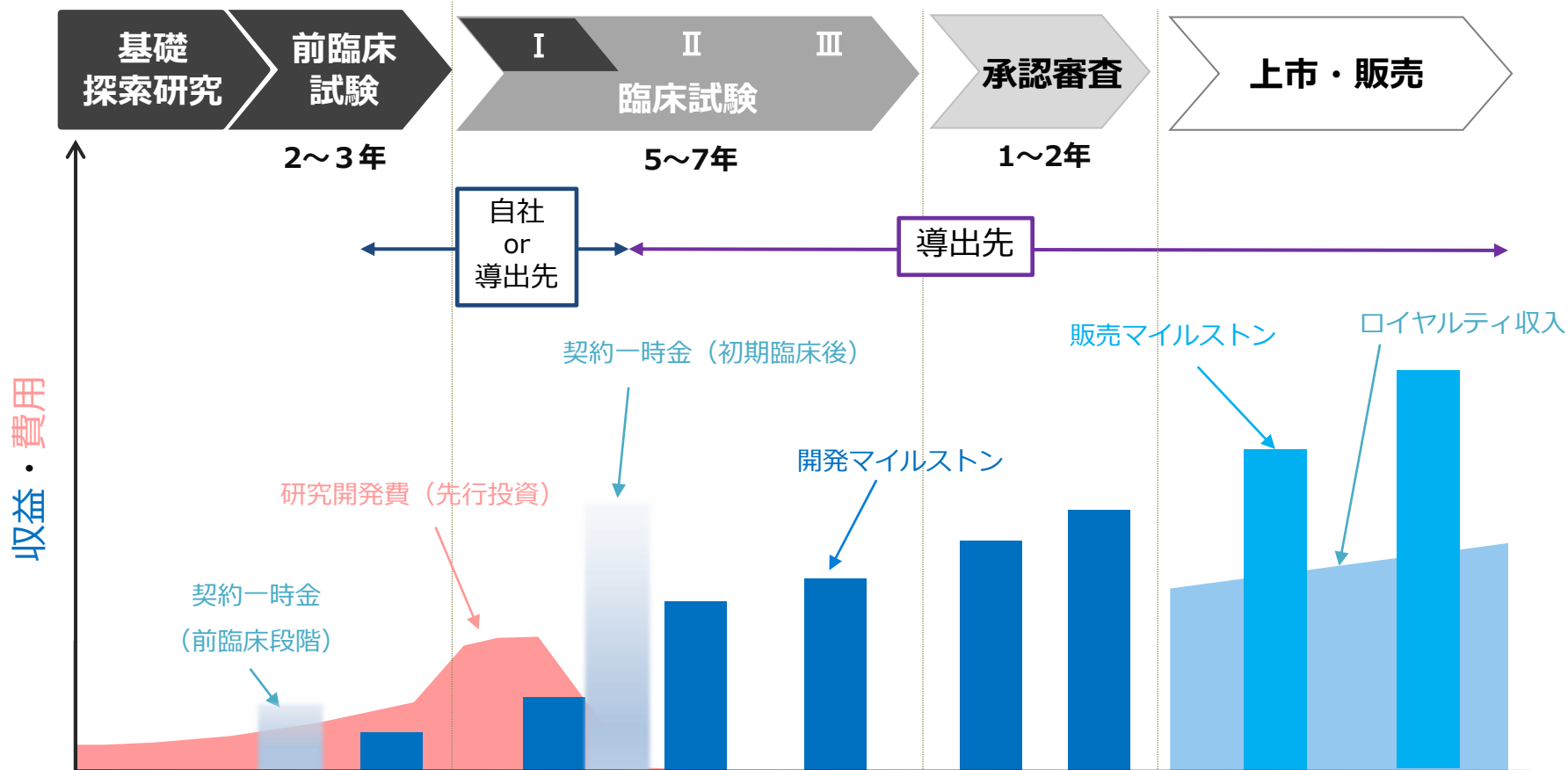


創薬支援事業における主要な取引先	契約締結年月
中外製薬株式会社	2011年 6月
Chugai Pharmabody Research Pte. Ltd	2012年 8月
田辺三菱製薬 TANABE RESEARCH Laboratories U.S.A., Inc.	2016年12月
小野薬品工業株式会社	2018年10月
協和キリン株式会社	2019年 7月

創薬事業の（一般的な）収益イメージ



ステージの進展に伴い、受領するマイルストーンの金額が増大。
上市後は販売金額に一定料率をかけたロイヤリティも発生。

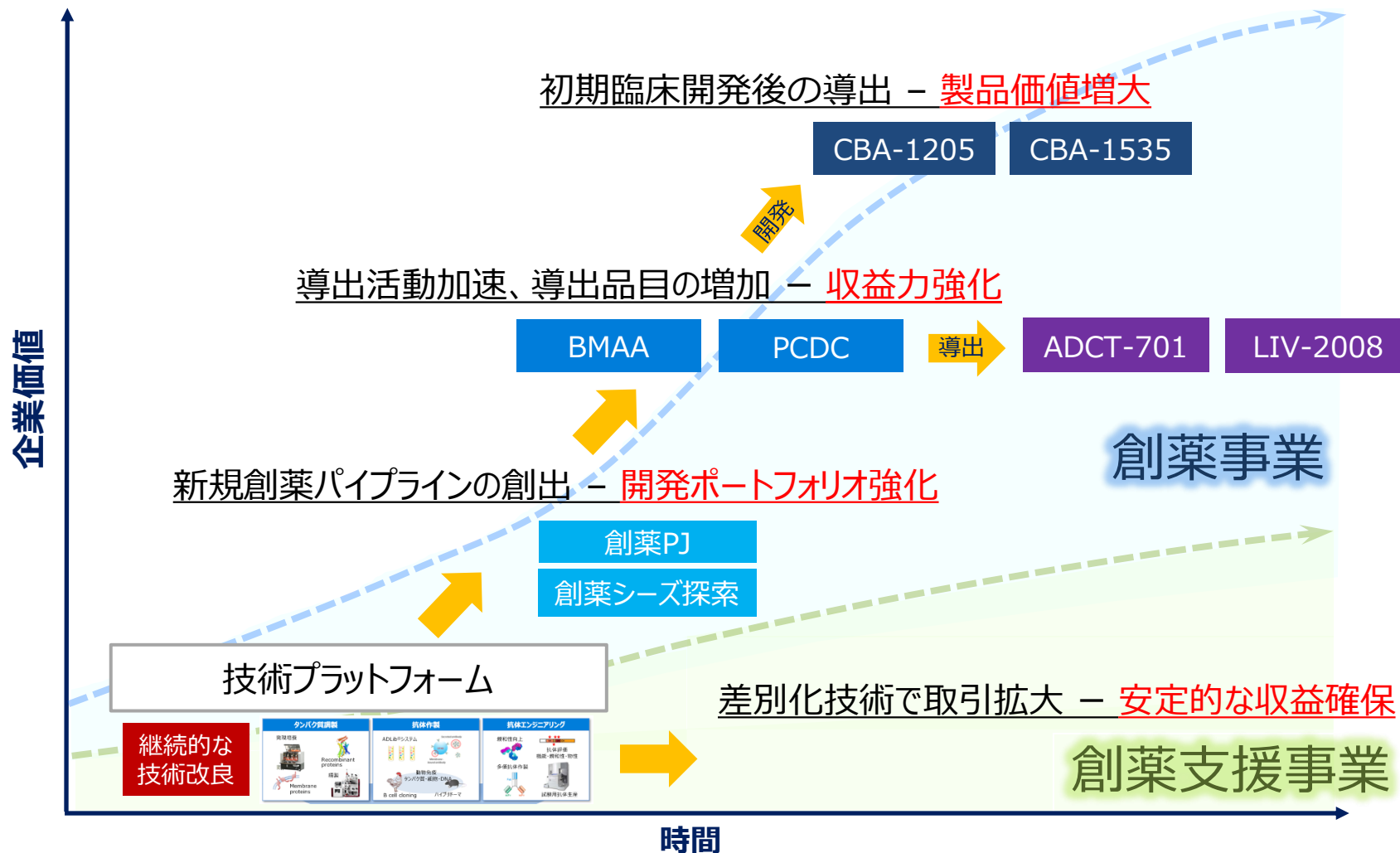


※上記は医薬品ライセンス契約をご理解いただくための収益イメージであり、実際の契約では、その契約ごとに契約一時金、マイルストーンのステージや数・金額、及びロイヤリティの料率の内容が異なります。

当社の成長戦略と今後の施策



アンメットニーズに対する抗体医薬品候補を複数創製し、製品価値の増大や導出による事業化の拡大に資する取り組みに注力





(参考) パイプライン紹介

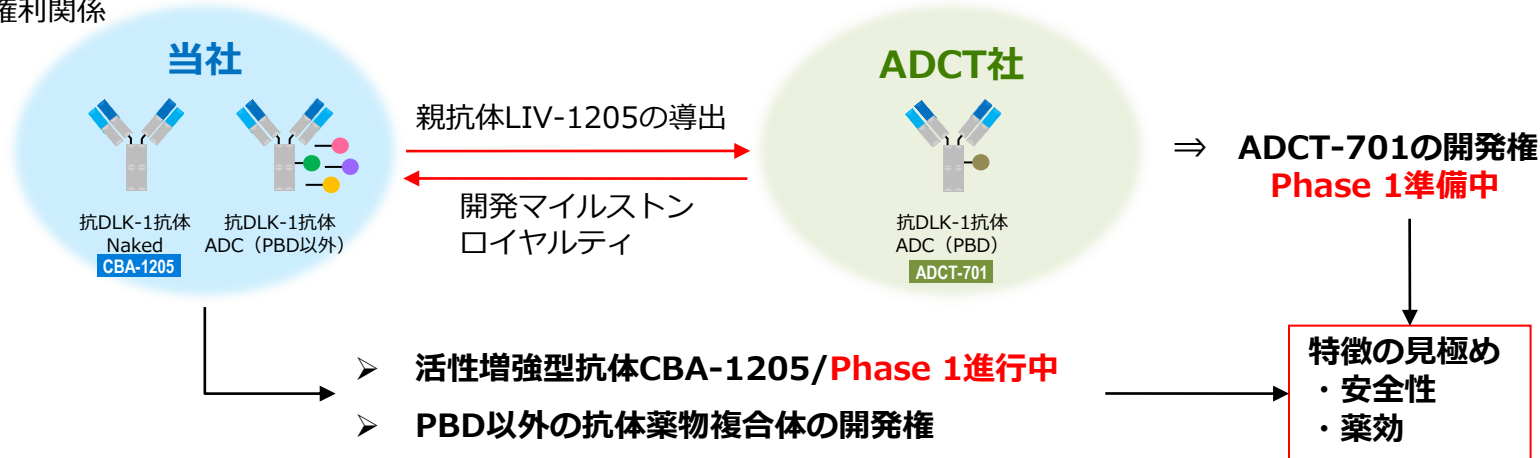
ADCT-701 (ヒト化抗DLK-1モノクローナル抗体の薬物複合体) 標的分子：DLK-1

特徴	DLK-1を標的とした抗体薬物複合体 (ADC)
想定適応疾患	神経芽細胞腫、肝細胞がん、小細胞肺がん等
知財	ヒト化抗DLK-1抗体：日本・米国・欧州・中国他で特許成立。

- ✓ ADCT-701は、カイオムが開発した抗体LIV-1205とPBD※の抗体薬物複合体。
(※Pyrrolobenzodiazepine：抗腫瘍特性を有する薬物)
- ✓ ADCT社は2022年のADCT-701のIND申請に向けて準備中。
- ✓ ADCT社は米国国立がん研究所 (NCI) と神経内分泌がんの共同開発へ。

(ADCT社HP：[Our Pipeline - ADC Therapeutics](#))

抗DLK-1抗体の権利関係





ADCT-701 米国国立がん研究所（NCI）との共同開発へ ～ADCT社とNCIがADCT-701の神経内分泌がんにおける共同開発を開始～

- ✓ ADC Therapeutics社と米国国立がん研究所（National Cancer Institute; NCI）は、神経内分泌悪性腫瘍におけるDLK-1*を標的としたADCT-701の臨床開発を目的に契約を締結。
- ✓ 当社はがん治療用抗体 LIV-1205 の、PBDを用いたAntibody Drug Conjugate（以下、ADC）開発用途に限定した全世界での独占的なサブライセンス権付の開発、製造および販売権をADCT社に付与しており、同社では開発コード ADCT-701 として臨床試験実施に向けた準備が進行中。

ADCT社とは

ADCT社はスイスのローザンヌ地方に本社を置くADC開発のリーダーで、ADC技術を用いて、固形がんおよび血液がんの両方を対象とした独自のがん治療薬を開発。同社のZYNLONTAは難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の治療薬としてFDAの承認を得ている。また、複数のプログラムにおいて臨床試験を実施している。



NCIとは

NCIとは、米国の国立衛生研究所（NIH）を構成する8つの機関の一つ。NCIは米国における抗がん剤開発の多くに関与しており、組織内部に大きな研究プログラムを持つだけでなく、米国内のがん研究者に対する助成も積極的に行っている。また、対がん戦略である国家がんプログラム（National Cancer Program）を調整する役割も担う。



LIV-2008/2008b (ヒト化抗TROP-2モノクローナル抗体) 標的分子：TROP-2

想定適応疾患	乳がん (TNBC)、大腸がん、膵がん、前立腺がん等
期待	TROP-2は、正常組織に比べ、乳がん、大腸がんのほか、膵がん、前立腺がん、肺がん等の複数の固形がんにおいて発現が増大しており、がんの悪性度に関連していることが報告されている分子。
知財	日本・米国・欧州・中国他で特許成立。

2021年1月 Shanghai Henlius Biotech, Inc.とのライセンス契約を締結

中華人民共和国、台湾、香港およびマカオにおける開発、製造および販売権を当社がHenlius社にサブライセンス権付きで許諾。全世界における権利についてはオプション権を付与。

(Henlius社HP：[HKEX-EPS 20210114 9583899 0.PDF \(windows.net\)](#))

経済条件

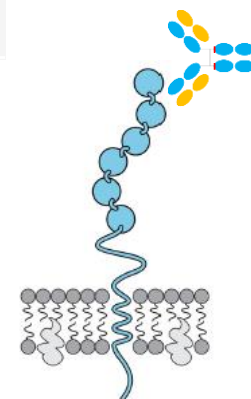
上記のオプション権を行使して全世界での開発、製造および販売を行う場合、オプション行使時の一時金と開発および販売の進捗に応じたマイルストーンの総額は最大約122.5百万USドルの契約。また、本医薬品が上市された場合には販売額に応じた一定料率のロイヤルティ収入を受領する。



CBA-1205 (ADCC活性増強型 ヒト化抗DLK-1モノクローナル抗体) 標的分子：DLK-1

ファーストインクラス

特徴	肝細胞がん等に特有のDLK-1というタンパク質を見分けて攻撃するがん治療用抗体。
ADCC活性	糖鎖改変技術：GlymaxX (ProBioGen)
想定適応疾患	難治性の癌腫である肝細胞がん、肺がん等
期待	DLK-1は幹細胞や前駆細胞のような未熟な細胞の増殖・分化を制御し、これまでに肝臓がんをはじめとする複数のがん細胞表面においても発現し、その増殖に関与していることが明らかとなった新しいがん治療の標的になる可能性がある分子。競合品のないファーストインクラス候補抗体。
知財	日本・米国・欧州・中国他で特許成立。



臨床第1相試験 前半Part：患者さんでの安全性を評価 → **評価終了/重篤な副作用の発生は無し**
後半Part：肝細胞がん患者さんで安全性の確認と有効性の評価。

解決すべきアンメットニーズ

肝細胞がんを始めとした有効な治療薬がない悪性度の高い腫瘍に対する新たな治療薬を提供する。

米国がん学会 (AACR) の年次集会でのポスター発表

タイトル：CBA-1205, a novel glycoengineered humanized antibody targeting DLK-1 exhibits potent anti-tumor activity in DLK-1 expressing tumor xenograft models

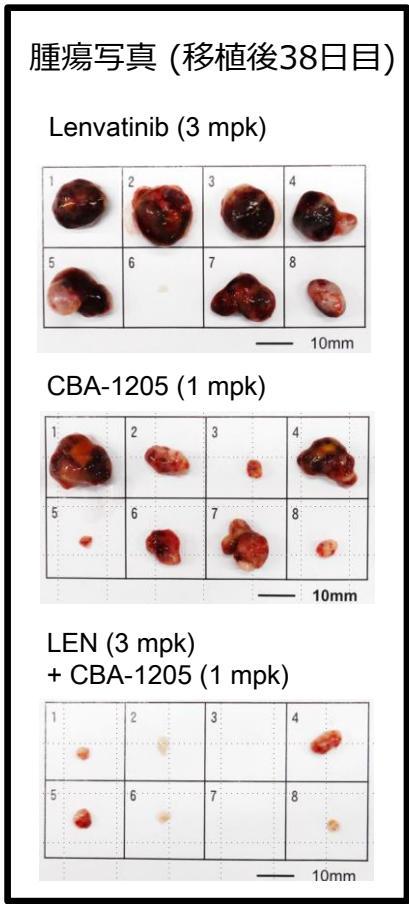
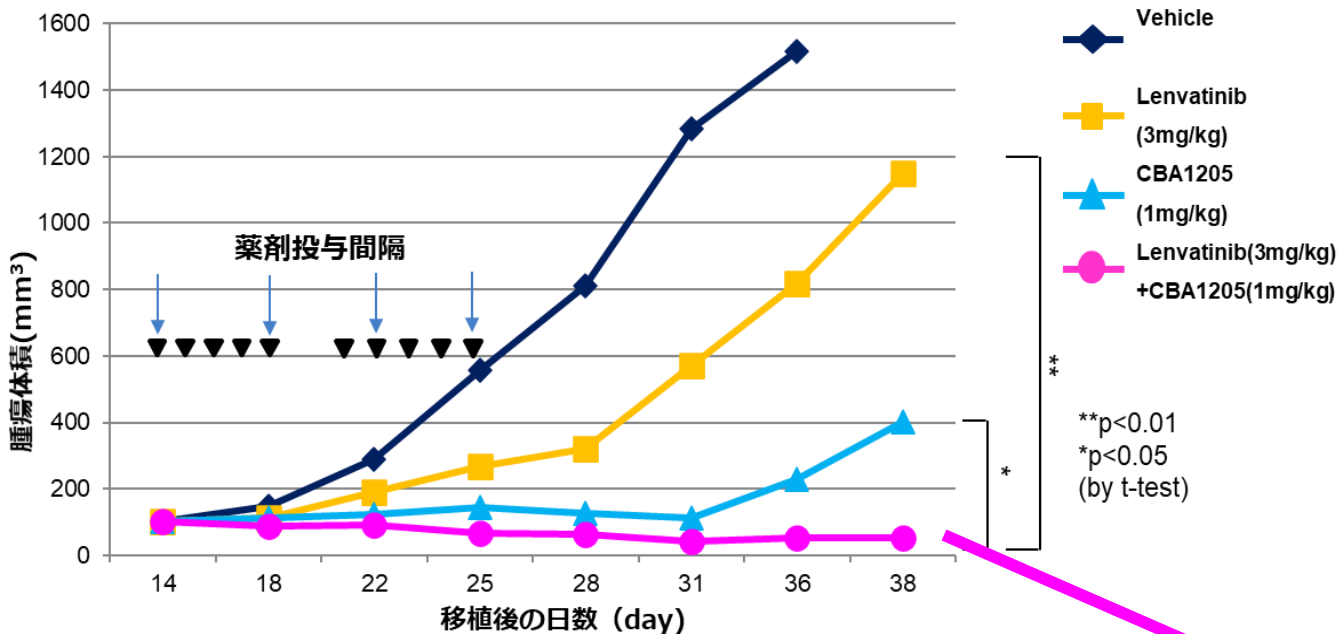
(ポスター資料：<https://www.abstractsonline.com/pp8/#!/6812/presentation/2425>) (2019年4月 AACR)



特許情報「CBA-1205とレンバチニブの併用」 ～レンバチニブの併用により持続的・強い腫瘍増殖抑制及び腫瘍縮小効果を発揮～

公開番号 WO/2020/204033

肝癌ゼノグラフトモデル（Hep3B）での併用効果



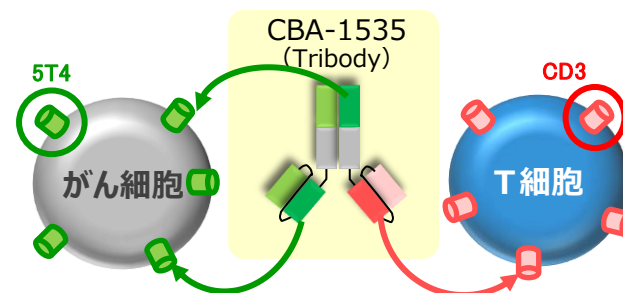
薬剤投与形態及び投与間隔

CBA-1205：腹腔内投与 週2ペースで計4回
Lenvatinib：経口投与 週5ペースで計10回

CBA-1535（ヒト化抗5T4・抗CD3多重特異性抗体） 標的分子：5T4×CD3×5T4

経緯	3つの分子を認識するTribody技術を用いて創製したがん治療用抗体
想定適応疾患	悪性中皮腫、小細胞肺癌、非小細胞肺癌、トリプルネガティブ乳がん(TNBC)等
期待	臨床標的としての安全性が確認されている既知（公知）のがん抗原5T4と免疫細胞であるT細胞上のタンパク質CD3を標的とする多重特異性抗体。T細胞の増殖と活性化を誘導して強力な細胞傷害活性を発揮する（T Cell engager）。Tribodyとしては初めての臨床開発品目であり、難治性がんに対する薬効が期待される。
知財	日本・英国・米国・中国で特許成立。欧州他で特許出願中

- ✓ Celonic社（CMO）での原薬及び治験製剤の製造を終了。
- ✓ コロナ禍の収束が見通せない中では、当初計画した英国での治験ではなく、相対的に開発への影響が少ない日本国内での治験申請へ。
- ✓ 治験申請時期は22年前半を見込む。



解決すべきアンメットニーズ

薬剤治療の選択肢が少なく、予後の悪い悪性中皮腫を始めとした固形がんに対する有効な治療薬を提供する。



BMAA（ヒト化抗セマフォリン3Aモノクローナル抗体）

標的分子：SEMA3A

ファーストインクラス

経緯	当社独自の抗体作製技術ADLib®システムで取得した抗セマフォリン3A抗体をヒト化した抗体。 横浜市立大学五嶋良郎教授との共同研究により選択性と機能阻害活性を兼ね備えた抗体として確立。
想定適応疾患	非開示
期待	免疫系疾患、神経疾患等、セマフォリン3Aとの関連が知られている幅広い疾患領域での適応が期待される。
知財	日本・米国・欧州で特許成立。

- ✓ セマフォリン3Aが関与する疾患に狙いを定めた海外研究機関との共同研究を実施完了。
- ✓ これまでに取得したセマフォリン3Aのデータおよびセマフォリンファミリーに関する探索研究のデータとともに今後の事業開発活動に繋げる。



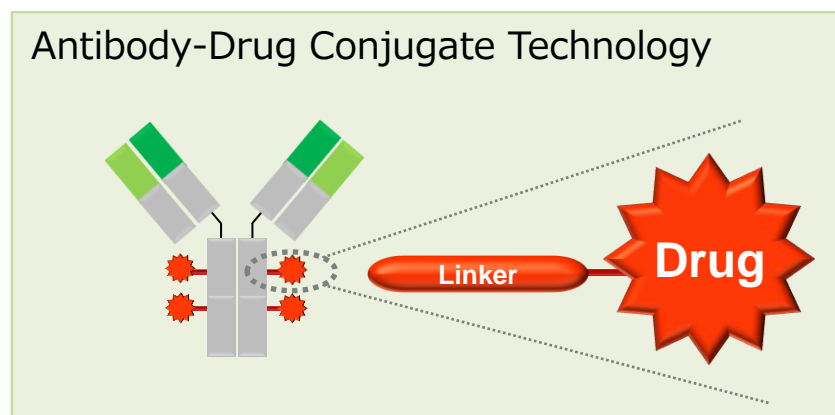
PCDC（ヒト化抗CDCP1抗体の薬物複合体）

標的分子：CDCP1

ファーストインクラス

経緯	当社が創製したヒト化抗CDCP-1抗体
想定適応疾患	固形がん
期待	CDCP1はFirst-in-classとなる標的分子であり、標準治療耐性のがん種を含む幅広い固形がんで発現している（肺、結腸直腸、膵臓、乳、卵巣がんなど）。結合特性および毒性プロファイルに基づく、広い有効域&安全域が期待される。
知財	『抗CDCP1抗体』（PCT国際出願中）

- ✓ ADC用途を中心とした導出活動を推進中
並行して追加動物試験実施
- ✓ 2021年7月、世界知的所有権機関（WIPO）
において出願特許情報が公開

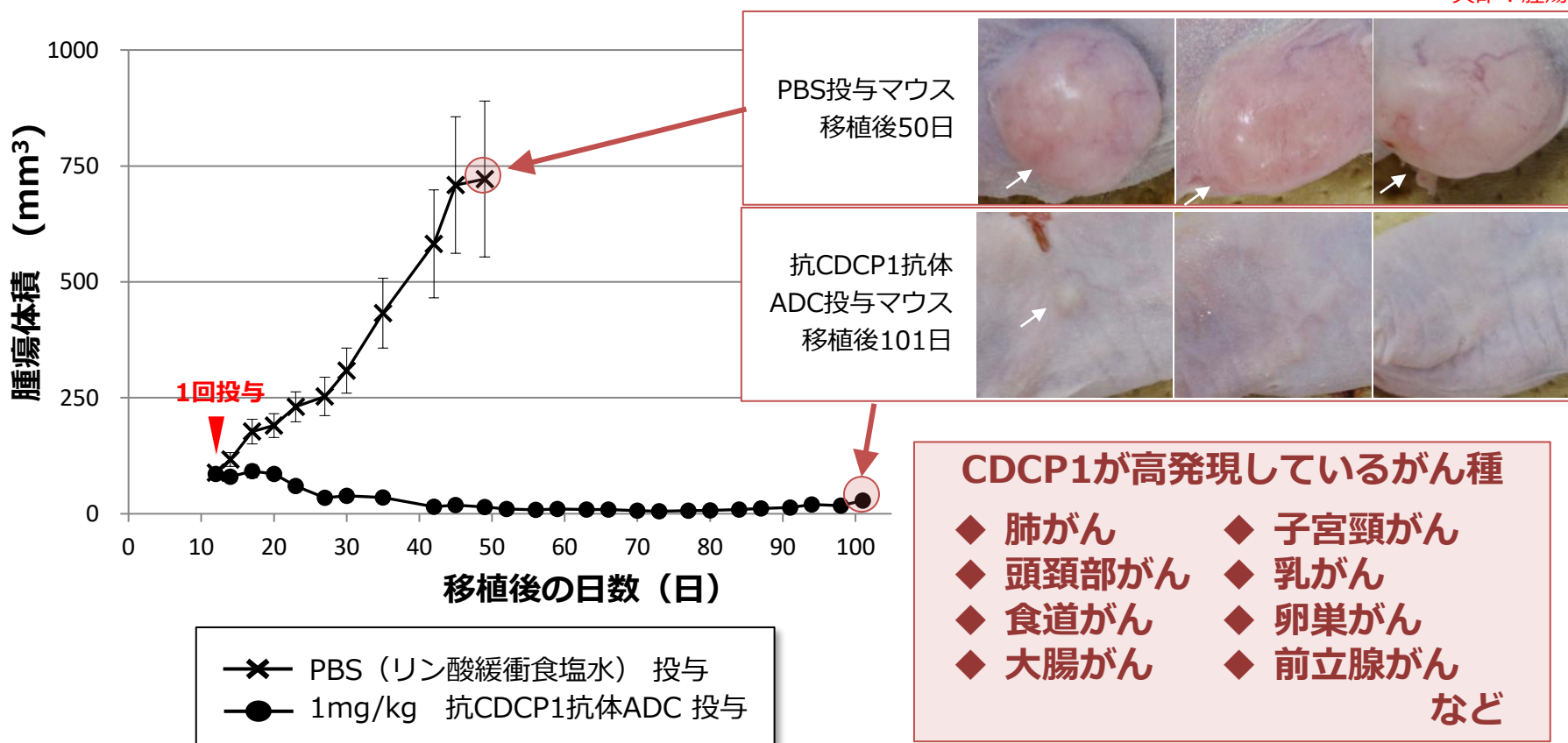


PCDC特許情報「抗CDCP1抗体およびADC化した抗CDCP1抗体」 ～抗腫瘍効果の高い抗体薬物複合体（ADC）用の抗体としての可能性～

公開番号 WO/2021/132427

前立腺癌ゼノグラフトモデルに対する薬効評価

矢印：腫瘍





用語	説明
アンメットニーズ	現状の医療では満たされていないニーズのこと。有効な治療法や薬剤がない、薬剤があっても使い勝手が悪い、副作用が強い、一時的に症状を抑えても再発する、時間とともに悪化するような場合、あるいは治療費が非常に高額になるような場合のこと。
多重特異性抗体	抗体のタンパク質構造を改良・応用して、より有効性の高い創薬につなげるための技術のひとつ。通常は一つの標的しか認識することができない抗体を改変して、一つの抗体分子が複数の異なる標的に結合できるようにした抗体のこと。二つの抗原に結合するバイスペシフィック抗体や、さらに抗原結合部位を増やしたマルチスペシフィック抗体などがある。
治験計画届	医薬品医療機器等法において、保健衛生上の見地から治験の実態を把握し、治験の安全性を確保するため、治験依頼者はPMDAを通して厚生労働省に治験計画書を届け出ることが義務付けられている。最初の届出（初回治験計画届）は、PMDAにおいて30日の調査が行われ、その結果が厚生労働省に報告される。
ハイブリドーマ法	抗原を免疫した動物から抗体を作り出すB細胞を取り出し、増殖し続ける能力を持った特殊な細胞（ミエローマ）と融合させて抗体を作り続ける細胞（ハイブリドーマ）を作製する方法。
ファーストインクラス	新しい薬効としてはじめて承認される新医薬品のこと。特に新規性・有用性が高く、化学構造や作用メカニズムが従来の医薬品と異なるなど、従来の治療体系を大幅に変えるような独創的な新医薬品をいう。
マイルストーン	導出後の臨床試験等の進捗にともない、その節目（マイルストーン）ごとに受領する収入のこと。
リード抗体	ADLib [®] システム、ハイブリドーマ法、B cell cloning法などの様々な手法で作製した抗体の中から、親和性、特異性、生物活性、安定性などのスクリーニングによって見出されたヒット抗体群の中から、医薬品になる可能性を有する抗体群をリード候補抗体と呼び、これらのリード候補抗体群のうち、医薬品としてその後の最適化などのステージに進めるための抗体をリード抗体と呼ぶ。
臨床試験	臨床試験は、少数の治験参加者に投与し、薬の安全性と薬が体内に入るとどのような動きをするのかを明らかにする第1相試験（フェーズ1）、比較的少数の患者さんに投与し、薬の効き目、副作用、使い方を調べる第2相試験（フェーズ2）、並びに多数の患者さんに薬を投与し効果と安全性を確かめる第3相試験（フェーズ3）の3段階がある。初期臨床試験は主に第1相試験および初期の第2相試験のことを指す。
ロイヤルティ	製品が販売（上市）された後に、その販売額の一定比率を受領する収入のこと。
ADC	抗体薬物複合体（antibody drug conjugate）のこと。例えば、悪性腫瘍の細胞表面だけに存在するタンパク質（抗原）に特異的に結合する抗体に毒性の高い薬剤を結合させると、そのADCは悪性腫瘍だけを死滅させることができる。このため、ADCは副作用が少なく効き目の強い薬剤となる可能性がある。



用語	説明
ADCC活性	抗体依存性細胞傷害活性（antibody-dependent-cellular-cytotoxicity）のこと。抗体薬にはがん細胞の表面に発現する標的抗原に結合し抗腫瘍効果を示す直接的な作用のほかに、患者さん自身の免疫細胞を介して抗腫瘍効果を発揮しうる作用がある。そのため、抗体薬が生体内の免疫細胞をがん周囲に呼び寄せ、集まった免疫細胞を活性化することによって、より大きな治療効果を期待できることがある。このような作用をADCC（抗体依存性細胞傷害）活性という。
ADLib [®] システム	カイオムが独自で開発した試験管内で迅速にヒト抗体を作製するためのプラットフォーム。
B cell cloning	抗原をトリやマウスなどの実験動物に免疫した後、その動物からBリンパ細胞を含む脾臓やリンパ節を取り出し、目的の抗原に結合する単一のBリンパ細胞を選択（クローニング）する手法。
CMC	Chemistry, Manufacturing and Controls の略称で、医薬品等の原薬・製剤の化学・製造およびその品質管理を指す。
CMO	Contract Manufacturing Organizationの略称。製薬会社から医薬品（治験薬・市販薬を含む）の製造を受託する企業のこと。医薬品を製造するためには、GMP（医薬品等の製造管理および品質管理に関する基準）をクリアする必要がある。CMOはGMPに対応できる技術力と設備を開発ライン・製造ライン共に備えている。
CRO	Contract Research Organizationの略称。製薬会社が医薬品開発のために行う治験業務（臨床開発）を受託・代行する企業のこと。臨床試験の企画支援、モニタリング、データマネジメント、薬事申請、非臨床試験等、製薬会社との委受託契約に基づき、それらのサービスの一部または全てを提供する。
GLP	Good Laboratory Practiceの略称で医薬品の安全性に関する前臨床試験の実施の基準。安全性評価試験の信頼性を確保するため、試験施設が備えるべき設備、機器、組織、試験の手順等について基準を定めたもの。
GMP	Good Manufacturing Practiceの略称。医薬品等の製造管理および品質管理に関する基準。WHO等の国際機関や各国の規制当局が策定している最終医薬品の製造に関する規範等。
T細胞	リンパ球の一種で、免疫反応の司令塔として重要な役割を果たす細胞。T細胞はその機能によって、免疫応答を促進するヘルパーT細胞、逆に免疫反応を抑制するサブレッサーT細胞、病原体に感染した細胞や癌細胞を直接殺すキラーT細胞などに分類される。
T cell engager抗体	1つまたは2つの抗原結合部位でがん細胞上の標的分子に結合し、一方でT細胞に発現するCD3に結合することによりT細胞の増殖と活性化を誘導し、T細胞による強力な細胞傷害活性を発揮する抗体のこと。



医療のアンメットニーズに創薬の光を

To accelerate drug discovery and development of mAb
for therapeutics to overcome current medical unmet-needs





- 本資料は、株式会社カイオム・バイオサイエンス（以下、当社という）を御理解頂くために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている将来の見通し、その他今後の予測・戦略などに関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲で判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因の変化等により、本資料記載の見通しとは異なる結果を生じる可能性があります。
- 将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさを内在しております。
- 今後、新たな情報や将来の出来事等が発生した場合でも、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新、修正を行う義務を負うものではありません。